

近世における『常陸国風土記』の研究について

—資料編(3)—

橋本雅之

(一)

本稿は、相愛女子短期大学『研究論集』(第四十二卷)に掲載した資料編(2)の続編である。略号その他、すべて前回と同じである。

(二)

自_レ郡東北十五里當麻郷。古老曰。倭武天皇巡行過_ニ于此郷_一。有_ニ佐伯_一。名曰_ニ鳥日子_一。縁_ニ其逆_レ命。隨便略殺。即幸_ニ屋形野之頓宮_一。車所_レ經之道。狭地深淺。取_ニ惡路之義_一。謂_ニ之當麻_一。(註)俗曰、多支多支斯。野之土塙。(註)然生_ニ紫艸_一。有_ニ香島香取_一神子之社_一。其周山野。椽柞栗柴。往往成_レ林。猪猴狼多住。

(25)狩_ニ西、恐南。

(26)狩_ニ倭名鈔、行方郡當麻郷今本論作當鹿。

小_ニ秀按、今有當間村、屬鹿島郡。秀按_ニ、タギマノカナ、下_ニ疑アレド、今ハトウマト云ナリ。

西野本頭注_ニ和名鈔、行方郡當麻郷。按、今當間村隸_ニ鹿島郡_一、訓_ニ多宇麻_一、記中所_レ載、當麻坂戸飯名之_ニ三村、相接如_ニ鼎足_一峙焉。

近世における『常陸国風土記』の研究について

(207) 狩_レ敬、恐敬。

(208) 西野本頭注_レ按、屋形野今鹿島郡有_二八方村_一、蓋此地也。

(209) 伴_レ帳宮、五丁オニモアリ。

(210) 小_レ末寿曰、道ノ悪キ事ヲタギ_レシト云シナリ。其タキヲトリテ、タキマト云トナリ。マノ意ハ別ニアルカ。
西野本頭注_レ古事記倭建命曰、今吾足不_レ得_レ歩、成_二當藝斯形_一、故號_二其地_一謂_二當藝_一也云々。和名抄、柁訓_二多伊之_一、引_二唐韻_一云、舩_ハ正_二松木也_一。蓋_レ以_レ柁譬_二道路之屈曲凸凹_一。日本紀謂_二路迂曲者_一、為_二哆嶸知_一即是也。

(211) 狩_レ桶、恐埒。

(212) 狩_レ取上、恐脱字。

從_レ是以南藝都里。古有_二國栖_一。曰_二寸津毗古_一。寸津毗賣_一。二人其寸津毗古。當_二天皇之幸_一。違_レ命背_レ化。甚_レ无_二肅敬_一。爰抽御劔_一。登時斬滅。於_レ是寸津毗賣。懼_レ悚心愁。表_二舉白幡_一。迎_レ道奉_レ拜。天皇矜降_二恩旨_一。放_二免其房_一。更廻_二乘輿_一。幸_二小拔野之頓宮_一。寸津毗賣。引_二率姉妹_一。信竭_二心力_一。不_レ避_二風雨_一。朝夕供奉。天皇歎_二其懇勲_一。惠慈。所以此野。謂_二字流波斯之小野_一。

(213) 狩_レ倭名鈔、行方郡藝津鄉。

西野本頭注_レ和名鈔、行方郡藝津鄉未_レ詳。其所_レ在里、俗或云、今郡中當間村、南_二有化蘇沼村_一。古所謂藝津里、而後世傳聞之訛也。因按、藝津、化蘇、國音相近、蓋言便訛也。

(214) 狩_レ其元、恐甚死。

(215) 伴_レ无_レ誤歟。

(216) 狩 || 卯、恐迎。

(217) 伴 || 小拔野、去島崎可四里北。

小 || 去嶋崎可四里北。

西野本頭注 || 按、郡中有「小貫村」。四方原野其云「小貫野」蓋此地也。

(218) 狩 || 疑、恐歎。

(219) 西野本頭注 || 按、宇流波斯小野又田里二所、共未詳其所_レ在。

其南名「田里」。⁽²²⁰⁾息長足日賣皇后之時。此地人名曰「古都比古」。三度遣_レ於韓國。重_レ其功勞、賜_レ田。因名。又有「波都武之野」。倭武天皇停_レ宿此野。修理弓弮。因名也。野北海邊。在「香島神子之社」。土塔椽柞楡⁽²²¹⁾二所_レ生。從_レ此以南相鹿大生里。古老曰。倭武天皇坐_レ相鹿丘前宮。此時膳炊屋舍。構_レ立浦濱。編_レ船作_レ橋通_レ御在所。取_レ大炊之義。名_レ大生之村。又倭武天皇之后。大橋比賣命自_レ倭降來。參_レ遇此地。故謂_レ「安布賀之邑」。⁽²²²⁾

(220) 狩 || 其下、恐脫文。

(221) 西野本頭注 || 諸本南字欠、今据_レ「本」補_レ之。

(222) 西野本頭注 || 息長足日賣皇后、神功皇后之諱也。紀曰、元年初九月庚午詔、令_レ諸國集_レ船舶_レ練_レ甲兵云々。因_レ按、當時古都比古、蓋從_レ「土師」而征_レ「三韓」也。然其名古史無_レ所_レ見。

(223) 狩 || 信名曰、人此地、當作此地人。

(224) 西野本頭注 || 波都武野、未_レ詳其所_レ在。

(225) 狩 || 埜、恐埜。

(226) 西野本頭注 || 按、丙本作楡、下欠、諸本未_レ詳。今据_レ「乙本」填_レ字。

近世における「常陸国風土記」の研究について

(27) 狩倭名鈔、行方郡大生郷、逢鹿郷。

伴相賀大生、今皆在。

小秀按二、村属行方郡。今大賀村隣大生村。

西野本頭注二和名鈔行方郡、大生郷、逢鹿郷。按今有大生大加ノ一村、相接臨北浦之流海。又大生村有大生明神社、例祭十一月十五日、鹿島齊女來祭之。

(28) 狩稱、恐構。

(29) 伴大炊於保比之託。

(30) 西野本頭注二按古事記、橘媛到相模國走水海、遇暴風没海、而今曰到此地。則一説相異矣。不知孰是。

(31) 狩環、恐遇。

伴遇ノ誤歟。

香島郡。東大海、南下総常陸界、(32)安是湖、西古老曰。難波長柄豊前大朝馭宇天皇之世。己酉年。大乙上中臣鎌子。大乙下中臣部

兔子等。請総領高向大夫。割下総國海上國造部内。輕野以南一里。那賀國造部内。寒田以北五里。別置神郡。其

處所有。天之大神社。坂戸社。沼尾社。合三處惣稱香島之大神。因名郡焉。風俗説曰、(31)環

(32) 伴安是、一九丁ウ。

西野本頭注二按、安是湖未詳。北條時鄰云、今神池蓋是也。

(33) 西野本頭注二阿多可奈湖未詳。一正云今酒沼浦、疑是也。

(34) 狩萬葉集注釋一云、常陸國風土記或云、卷向日代宮大八洲照臨天皇之世、或云、石村玉穗宮大八洲所馭天皇

之世、或云、難波長柄豊前大朝八洲撫馭天皇之世。

(235) 狩||中臣子、恐脱文。

伴||鎌脱欵。

西野本頭注||按、己酉謂孝德天皇大化五年、丁本中臣下欠、恐脱「鎌字」。故今補之、以備考。

(236) 狩||和名鈔、鹿島郡輕野郷。

西野本頭注||和名鈔、鹿島群輕野郷、按萬葉集、苅野橋別「大伴卿」時歌、有「自輕野」出「舩而」、向「下総國海上」句上、蓋謂「此地」也。

(237) 小||天之大神社、坂戸社、沼尾社。

(238) 伴||坂戸村^{サカド}、坂戸神社アリ。鹿島志云、祭神天兒屋根命。

西野本頭注||按、郡中坂戸村有「坂戸神社」、祭神天兒屋根命。

(239) 狩||倭名鈔、鹿嶋郡諸尾郷、今有鹿嶋郡沼尾村、作治、作諸、恐並誤。

伴||沼之誤、十八丁才見合ヘシ。

小||秀按、治尾、疑沼尾。

西野本頭注||沼尾村有「沼尾神社」。祭神經津主大神、神道集曰、鹿島三處者、沼尾坂戸云云。

(240) 西野本頭注||延喜神名式曰、鹿島神宮名神大月次新嘗。續日本紀曰、寶龜八年七月、叙鹿島神正三位、續日

本後紀曰、承和三年五月、奉授常陸國鹿島郡從二位勲一等建御賀豆智命正二位、同六年十月奉授從一位。

文德實錄曰、嘉祥三年九月朔、奉叙建御賀豆智命正一位云云。

(241) 狩||萬葉集廿云、阿良例布理可志麻能可美乎伊能利都々

伴_レ万七_{十五丁ウ}霰零云々、同升_{升七丁オ}阿良礼布理云々、万葉_{セアラシテ}霰零鹿島之崎乎、同二十那賀郡上丁大舍人部千文、阿良礼布理可志麻能可美乎いのりつ、皇軍に吾ハ来にしを。万葉三ノ四四丁オ霰零吉志美我嶺。
スメラミナサ

清濁得_レ糺。天地草味以前。諸祖天神。俗曰、謂賀味₍₂₆₎魯₍₂₆₎會₍₂₆₎集八百萬神於高天之原₍₂₆₎。時諸祖神。告曰。今我御孫命。光宅豐原水穂之國₍₂₆₎。自_三高天原_一。降來大神。名稱_二香島天之大神_一。天則號曰_二香島之宮_一。地則名_二豐香島之宮_一。

(242) 狩_レ諸神、恐諸祖。

伴_レ祖ノ誤歟。次ノ行ニ諸祖神トアリ。

(243) 小_レ壽云、留ハ魯ノ誤カ。

(244) 狩_レ延喜式、遷却崇神祝詞云、高天之原_尔神留坐_言事始給_志神漏伎神漏美_能命以_比天之高市_尔八百万神等_乎神集集給_比神議議給_与我皇御孫之尊_波葦原_能水穂之國_乎安國_止乎久所知食_止天之磐座放_与天之八重雲_乎伊頭之千別_尔千別_与天降所寄奉_志時_尔誰神_乎先遣_波水穂國_能荒振神等_乎神攘攘平_{氣武}神議議給時_尔云々。

(245) 狩_レ國下、脱文居多。古事記神代紀可證。

(246) 狩_レ延喜式、春日祭祝詞云、鹿嶋坐健御賀豆智命。

(247) 狩_レ神名式、鹿嶋郡鹿嶋神宮_{名神大月}次新替

(240) 俗曰、葦原水穂國所依將奉上始留爾、荒振神等、又石根本立、草乃片葉辭語之、
(241) 書者狹繩音聲、夜者(火)光明國 此乎事向平定、大神從上天降供奉之。

(248) 狩_レ神代紀下云、葦原中國者。磐根木株、草葉猶能言語、夜者若燦火而喧響之、書者如五月蠅而沸騰之。延喜式、大殿祭祝詞云、大八洲葦原瑞穂之國_乎安國_止乎久所知食_止言寄奉賜_比以天津御量_氏事問_之磐根木根_乃立_知草

能可葉乎言止三天降利賜比。
岐毛志

伴二此細書、イタク讀ガタキヲ書紀ノ文ドモ、又祝詞ニヨリテ姑ク如此正シ訓ツ。サテ、文義ノ調ヒガタキハ、モトヨリ此記ノサマナリ。又脱タル字、誤レル字モアルベシ。夫木集ニ藤原光俊、みそらより跡たれたりし跡の宮其代も知らず神さびにけり。此哥ハ鹿島社に跡宮と申社ハ、大明神のはじめて天くだらせ給ひしところ也云々。トアリ。鹿島志に、此社ヲ神野村ニアリ。物忌ノ居宅ノカタヘニ祭レル社ナリ。

(249) 伴二畫者狹蠅音聲、夜者火瓮明國ナルヘシ。御は從ノ誤。
ヒルハサバノ如オトナヒ

(250) 西野本頭注二與清云、火字下、蓋脱ニ強字ニ乎。
ホベノ如アキ也

(251) 西野本頭注二信友云、光字疑瓮字訛、光瓮字、相似當レ作レ瓮也。

其後至三初國所知美麻貴天皇之世一。奉幣大刀十口。鉾二枚。鐵弓二張。鐵箭二具。許呂四口。枚鐵一連。練鐵一連。馬一疋。鞍一具。八咫鏡二面。五色繩一連。
(252) 俗曰、美麻貴天皇之世、大坂山乃頂爾、白細乃大御服(253) 杖取坐、讒賜命者、我前而訪問、於是(254) 大中臣神聞勝命答言曰、大八島國、汝所知食國止事向賜之、香島國坐、天津大御神乃舉教戒事者、天皇聞、語、即恐驚、奉、納、前件幣用於神宮也。

(252) 狩二景行十二年紀云、故称謂御肇國天皇也。

西野本頭注二鶴峰戊申云、初國所知美麻貴天皇謂崇神帝紀曰、是以天神地祇共和亨而、風雨順レ時、百穀用成

云云、故稱謂御肇國天皇一也。

(253) 伴二此細書ノ事モ上ニ云ヘルガゴトク、ヨミトキガタキヲ姑ク此クヨメリ。

(254) 狩二生、恐坐。上猶疑、脱一字。

(255) 狩二杖、恐杖。

伴 枚杖。イツレモ杖ノ誤歟。

近世における『常陸国風土記』の研究について

近世における『常陸国風土記』の研究について

(250) 狩手、恐乎。

(251) 狩聞勝、二字恐衍。

伴勝字衍ニテ、聞看食国ナラム歟。下文ノ神聞勝命ノ名ニ混ヒタルナルベシ。佐原義淳云リ。

西野本頭注ニ佐原義淳云、汝聞下、勝字按恐後人所為之字也。

(252) 狩圍、恐國。

(253) 小末寿云、荒木田系圖、神聞勝命自孝照天皇、至開化天皇奉仕。

西野本頭注ニ荒木田系圖云、神聞勝命自孝照天皇、至開化天皇之御世奉仕云云。

神戶六十五烟。本八戸、難波天皇之世、加奉五十戸、飛鳥淨見原大朝、加奉九戸、合六十七戸、庚寅年、編戸減三戸、令定六十五戸。

(254) 伴神戶、今鹿島宮ノ南四里餘ニ神戶村アリ。コ、ニ神宮ノ遙拜所アリ。統紀天平勝宝四年九月丁丑、常陸国

鹿島神奴二百十八人、便為神戶。マタ宝龜十一年十二月壬子、常陸国言脱漏神賤七百七十四人、請編神戶許之。

西野本頭注ニ按續日本紀云、天平寶字二年九月、常陸國鹿島神奴二百十八人、便為神戶云云。又神護景雲元年四月、放鹿島神賤男八十人女七十五人、從良云云。又寶龜四年六月、神賤一百五人、自神護景雲元年、立制置一所、不許與良婚姻。至是依舊、居住更不移動其同類。相婚一依前例云云。同十一年十二月、常陸國言脱漏神賤七百七十四人、請編神戶許之。

淡海大津朝。初遣使人造神之宮。自爾以來。修理不絕。年別七月。造舟而奉納津宮。古老曰。倭武天皇之世。天之大神宣中臣臣狹山命。今社御舟者。臣狹山命答曰。謹承大命。無敢所辭。天之大神味爽復宣。汝

舟者置_レ於海中_一。舟主仍見。在_二岡上_一。又宣。汝舟者置_レ於岡上_一也。舟主因求。更在_二海中_一。如_レ此之事。已非_二三二_一。爰則懼惶。新令_レ造_二舟三隻_一。各長二丈餘。初獻_レ之。又年別四月十日。設_レ祭灌_レ酒。卜氏種屬。男女集會。積_レ日累_レ夜。飲樂歌舞。其唱曰。安良佐賀乃。賀味能彌佐氣乎。多義止。伊比祁婆賀母與。和我惠比爾祁牟。

(80) 伴_二鹿島志_一云、奥宮ハ本宮ヨリ二町ハカリ東ニアリ。大神ノ荒魂ヲ齋祭ル宮也。祢宜祝ハ更ナリ。參詣ル諸人モ神前ニ物音ヲ禁シ、祭ノ中ハ拍手ヲモ忍ニ拍テ忌謹メリ。三実、鹿島大神宮、惣六箇院二十年間、一加修造、所用材木、五萬餘枝、工夫十六萬九千餘人、料稻十八萬二千餘束。

西野本頭注_二三代實錄_一云、貞觀八年正月、鹿島大神、六箇院升年間、一_二加修造_一、所用材木五萬餘枝、工夫十六萬九千餘人、料稻十八萬二千餘束云云。延喜式云、常陸國鹿島神社正殿、升年一度改造。其料使用_二神稅_一、如無_二神稅_一、即充_二正稅_一云云。

(81) 伴_二今社御舟_一云、毎年七月十一日ノ夜、御船祭トテ、三社ノ御舟ノ上ニ假屋神輿ヲ造リ、色色ノキヌカサヲ飭リ、注連ヲ引キ、三艘ノ舟ヲ双ベ纜ヲトキ、内海ヘ流ス。津_東西_社ト云フ末社ノ前ヨリ軍ヲト_レノヘ、異國退治ノ悅ノ荒波ヲアゲ、御舟ヲ、オノ_レ波ノ上ニ浮奉レハ、下総國香取ノ神宮ノ末社、津宮ト云フ渚ニ人カノ棹モサ_レズ、自_レ神風ニ任セ御舟ヲ着ケ御坐スト云々、ト鹿島大神宮ニ在ル例傳記ニ見ユ。津_東西_社ハ、高麗閻羅ナレバ、貴舟ノ神ニ由アリゲナリ。サテ此祭、今ハ只式ノミ遺リテ丸木舟三隻ヲ造リ、門ノ前ニ備ヘコレヲウツホ舟ト云フ。マタ神劍楯板旗竿ナドヲカサリテ、諸神官列座ス。シカシテ祢宜一人進ミ出、行事時_{ギヤウ}ト呼。一同唯々ト申テ退ク也ト、鹿島神官北條時鄰イヘリ。コレ風土記ノ古実ノ遺式也。サテ津_東西_トハ、鹿島ノ船津ト香取ノ船津トヲサシテイヘルナルベシ。其津水上三里許ニ対ヘル処、東西也。今鹿島ノ方ハ、大船津ト云ヘドモ、香取ノ方ハ津宮ト云ヘリト、或人ノ云ヘル宜シト、コレモ北條氏云ヘリ。又云、鹿島郡下生村ニあいそこいそノ社アリ。高麗閻羅ヲ祭ル。又津東西社ト云イフ也。吳竹集ニ、常陸なるあい

そこいその山こえて鹿嶋国のはてとこそきけ 同書二、あいそこいそとハ、あなたこなたと云ふ詞なりトアリ、ト云へり。以上鹿島宮人北条時郷説也。信友按、東西ヲあなたこなたト云ヘル意ニテ、社ヲモシカ云ヘルナルベシ。

(265) 狩||宜、恐宣。

(264) 狩||巨、當作臣。

伴||臣之誤、下曰。

小||一本作大、荒木田系圖、臣狭山命、景行天皇奉仕。

西野本頭注||按臣狭山命、鹿島大宮司系圖云、天兒屋根命十世孫臣狭山命御子狭山彦命、中臣鹿島連初祖也云云。

(265) 狩||令社、恐令仕、或令作。

(266) 伴||脱文アルベシ。

(267) 狩|| (新の字重複、その注として) 一新字、衍。

伴|| (新の字の下、疊字あり。その注として) ニノ假字混入歟。

(268) 狩||便、恐艘。

(269) 狩||谷、恐各。

(270) 西野本頭注||續日本紀云、天平十八年三月、常陸國鹿島郡中臣部廿烟、占部五烟賜ニ中臣鹿島連之姓ニ云云。

(271) 狩|| (累の下、子あり。その注として) 子字、恐衍。

伴|| (累の下、一あり。その注として) 一ノ字、乙点ノ混入カ。子イステカナ混入。

(272) 小||百樹云、コノ哥モ細注ニカクヘシ。

(273) 狩 || 郡、恐那。

(274) 狩 || 羊、恐牟。

神社周匝。ト氏居所。地體高敞⁽²⁷⁵⁾。東西臨⁽²⁷⁶⁾海。峰谷犬牙。邑里交錯。山木野艸。自屏⁽²⁷⁷⁾内庭之藩籬⁽²⁷⁸⁾。潤流⁽²⁷⁹⁾嵯泉⁽²⁸⁰⁾。□涌⁽²⁸¹⁾朝夕之汲流⁽²⁸²⁾。嶺頭構⁽²⁸³⁾舎。松竹衛⁽²⁸⁴⁾於垣外⁽²⁸⁵⁾。谿腰掘⁽²⁸⁶⁾井。薜蘿蔭⁽²⁸⁷⁾於壁上⁽²⁸⁸⁾。春經⁽²⁸⁹⁾其村⁽²⁹⁰⁾者。百艸⁽²⁹¹⁾□花⁽²⁹²⁾。秋過⁽²⁹³⁾其路⁽²⁹⁴⁾者。千樹錦葉。可謂⁽²⁹⁵⁾神仙幽居之境⁽²⁹⁶⁾。□異⁽²⁹⁷⁾化誕之地⁽²⁹⁸⁾。佳麗之豐不⁽²⁹⁹⁾可⁽³⁰⁰⁾委記⁽³⁰¹⁾。

(275) 狩 || 故、恐敞

(276) 西野本頭注 || 丙本、藩籬作⁽²⁷⁶⁾蕃籬⁽²⁷⁷⁾。

(277) 西野本頭注 || 甲本乙本、潤流作⁽²⁷⁸⁾瀾流⁽²⁷⁹⁾丁本作⁽²⁸⁰⁾澗流⁽²⁸¹⁾。今据⁽²⁸²⁾己本⁽²⁸³⁾。不知⁽²⁸⁴⁾何是⁽²⁸⁵⁾。

(278) 伴 || 一字脱アルヘシ。

(279) 狩 || (空白部に、朽損の二字あり。伴本、小宮山本も同じ。その注として) 朽損二字、蓋後人校語。

伴 || 十八オ、朽損花、 ^{朽損}トアリシガ誤リテ本文トナリシ也。下ノ十九丁オニ例有。下ノ錦葉ニ對シテ、 花ト書ルナルヘシ。

小 || 二字誤リ。一字ナルヘシ。

西野本頭注 || 按諸本、百草下有⁽²⁸⁶⁾朽損⁽²⁸⁷⁾二字⁽²⁸⁸⁾。疑後人校語、而誤入⁽²⁸⁹⁾本行⁽²⁹⁰⁾也。故今削⁽²⁹¹⁾之。

(280) 狩 || (仙の下、之あり。その注として) 上之、恐衍。

其社南郡家北。沼尾池。⁽³⁰²⁾古老曰。神世自⁽³⁰³⁾天流來水沼。所⁽³⁰⁴⁾生蓮根。味氣太異。⁽³⁰⁵⁾甘美絶⁽³⁰⁶⁾他所⁽³⁰⁷⁾之。有⁽³⁰⁸⁾病者食⁽³⁰⁹⁾此沼蓮⁽³¹⁰⁾。早差驗之。鮒鯉多住。前郡所⁽³¹¹⁾置。多蒔⁽³¹²⁾橘。其實味之。

近世における『常陸国風土記』の研究について

⑧狩治、恐沼。

伴沼尾池、信友按、夫木集ニ藤原光俊、沼の尾の池の玉水神代よりたえぬや深き誓なるらんトアリ。不老不死ノ文、此記ニ見エズ。モシクハ古本、蓮根云々甘絶也ノ下ニ、喫レ之不老不死ナド云フ文ノアリシナルベシ。サテハ他所之有病者云々ノ文モ、カケ合テ通ユ。鹿島の社に詣でしついでに、宮めぐりし待るに、ぬま尾の社ハ、かの池のことさたいたさぎよくみえて、神代に空より水くだりてと思ふも、ことありかたし。蓮の生て服することの不老不死也など、風土記に見えたるに、今ハなきふることになん待りける。

西野本頭注ニ和名鈔、鹿島郡沼尾郷沼尾社之傍、有池。蓋是也。夫木集有藤原光俊歌。其詞云、康元元年十一月五日、詣鹿島社、其次見沼尾池之蓮。風土記所謂不老不死之語、今徒存古語耳。絶矣云云。因按、甘美下當有服之不老不死等之語。俟來哲之是正。

⑨狩大異甘絶、恐甘絶大異。

⑩伴(郡の下)司、或宰字脱欵。

西野本頭注ニ信友云、前郡下、恐脱司等之字也矣。

郡東二三里高松濱。大海濱邊。流著砂貝。積成高丘。松林自生。椎柴交雜。既如山野。東西松下出泉。可八九步。清淳太好。慶雲元年。國司采女朝臣。卜率鍛冶佐備大麻呂等。採若松濱之鐵。以造劔之。自此以南至輕野里。若松濱之間。可卅餘里。此皆松山。産伏斧伏神。每年掘之。其若松浦。即常陸下総二國之界。安是湖之所。有沙鐵造劔大利。然為香島之神山。不得輒入伐松穿鐵也。

⑪狩都、恐郡。

⑫西野本頭注ニ按高松濱未詳其所。高字、恐若字誤。或云、若松濱之地、指其高處、謂高松濱也。

(286) 伴||着カ、十九丁オ六行例アリ。

(287) 西野本頭注||丙本積成高丘、作民居其丘今據己本一。

(288) 伴||以下廿九字、十九丁オ三行、穿鐵也ノ下ニ入ベシ。義淳考

(289) 伴||采女、臣三丁オニアリ。姓系下、百二丁ウ、采女臣、同中六六オ、采女朝臣。統紀神護景雲二年六月戊寅、掌膳、常陸國筑波采女云云、並為本國造トアルハ、采女ニテ氏ニハアラズ。

(290) 西野本頭注||諸本無ニト字、據丁本ニ補之。治字、並同之。

(291) 伴||輕野、和名抄鹿島郡輕野、万、鹿嶋郡苅野橋別ニ大伴卿歌。

(292) 西野本頭注||按今神池之傍、深芝村ニ三里許間、謂若松濱。古輕野若松濱之地、而沙山松林也。

(293) 西野本頭注||伏神、甲本乙本並無伏字。今據丙本ニ補之。丁本、掘字作採字。按本草綱目云、茯苓抱根者、名謂伏神ニ云。

(294) 西野本頭注||佐原義淳云、上文慶雲以下廿九字、當移在穿鐵也之下。恐傳寫誤也。

郡南井里濱里。以東松山之中。有二大沼。謂寒田。可四五里。鯉鮒住之。沼水流漑輕野田二里許。所_レ有田少潤之。輕野以東大海濱邊。流著大船。長一十五丈。濶一丈餘。朽摧埋砂。今猶遺之。謂淡海之也、據遺(即)寬國、(即)今陸奥國石城松造作大船、至此。著岸即破之。

(295) 狩||和名鈔、鹿嶋郡幡麻郷。

西野本頭注||和名鈔、鹿島郡幡麻郷、未詳其所_レ在。

(296) 伴||寒田ノ沼、国人北条氏云、神宮ノ南三里許ニ神ノ池トテイト廣キ池アリ。鹿島瑞驗記ニ、神ノ池ハ鹿島宮ノ池也。寛永十八年大飢餓ニ、此池ヨリ細キ鳥糞ノゴトク長四五尋バカリノ藻、汀ヘ日夜寄来ルホド近辺ハ云フニ及バス、遠方他国ノ者マデモ聞ツタヘ、是ヲトリ飯ノカテトシ、或ハ汁ニ煮テ食トシ、命ヲ続ケルモ

近世における『常陸国風土記』の研究について

大神ノ御恵也。トアルコレ也ト云へり。

小ノ秀按、今鹿島有稱業池者、疑是也。

西野本頭注ノ北條時鄰云、寒田今神池是也。

(257) 狩ノ四五下、恐脱。

(258) 西野本頭注ノ諸本無「沼水流漑四字」。今据ニ丁本及戊本、補ニ正之。

(259) 伴ノ軽野、今人云、神池ノ辺ヲスベテ軽野ト云フ。万葉ニ鹿島郡苅野橋別ニ大伴卿トコト書シタル長歌ニ、軽野ヨリ舟出シテ、下総ノ海上サシテ渡ル由ヨメリ。此橋今ハアラズ。古来歌合歌枕名定圓、月影ハすみわたらん鹿島なるかる野の橋の秋の塩風。明玉集、かしまなるかりの、橋のよとともに思ひ乱れて恋いやすたらむ。

(300) 伴ノ長一十五里大ノ里ハ衍、大ハ丈ノ誤ニテ長一十五丈ナルヘシ。義淳考。

西野本頭注ノ諸本五丈作ニ五里ニ誤、據ニ戊本及辛本。

(301) 狩ノ不見、恐竟。

伴ノ竟ニテモアルベシ。

(302) 狩ノ今、恐令。

以南童子(303)女松原。古有ニ年少童子(304)。俗曰(305)加味乃乎止古、稱ニ那賀寒田之郎子。女號ニ海上安是之嬢子(306)。竝形容端正。光ニ華郷里。相聞名聲。同存ニ望念。自愛心熾。經月累日。嬢歌之會。俗曰、宇大我岐、邂逅相遇。于時郎子歌曰。
(307)伊夜是留乃、阿是乃古麻都爾、由布悉
(308)引三、和乎利彌由母、阿是古志麻波母。嬢子報歌曰。
(309)古何、夜蘇志麻加久理、和乎彌佐婆志理之。
(310)宇志、(311)乎爾波、多多牟止伊間止、(312)奈西乃、(313)便欲ニ相語。恐ニ人知之。避ニ自遊場ニ蔭ニ松下一。

(303) 狩シ 釋日本紀十三引、此全同。河海抄十五幻亦引。

伴ハナ 河海抄幻卷二、常陸国風土記ナル童女松原云々トアリテ其文ハ引レズ。北條氏云、童女松原ノ辺、東下ノ

羽崎村ニ、手子崎神社アリ。大神ノ御女ノ神也トイヘリ。此古事ノ童女ニヤ。万葉ニ女子ヲ愛シテ手児トヨ

メル歌、真間ノ手児名、石井手児、サワタリノ手児ナドナホアリ。駿河風土記、手児呼坂ノ古事アリ。

西野本頭注 按童子女松原、未詳其所レ在。釋日本紀、引風土記、松原作「杉原」。蓋傳寫所致乎。河海抄幻

卷云、常陸國童女松原云云。然不載其文。

(304) 伴ハナ 僅所歌紀廿丁ノウ、僅トアリ。

(305) 伴 安是十五丁ウ、安是湖トアリ。地名也。

(306) 小 秀按、形容釋日本紀引此文、作貌容。作光透。

西野本頭注 釋日本紀、形容作「貌容」、又光華作「光透」、又即子歌為「孃子歌」訛。

(307) 西野本頭注 甲本乙本及丙本、心熾作「心滅」非、据「戊本」。

(308) 狩 萬葉集九、載登筑波嶺為孃歌會日作歌一首。仙覺注釋引此文不著書名。

伴ハナ 孃歌、萬葉集九廿三丁ウニ、登筑波嶺為孃歌會日作歌云々、孃歌者、東俗語曰「賀我比」、未通女壯士

之往集加賀布孃歌尔他妻尔吾毛交牟妻尔他毛言問此山乎牛掃神之從來不禁行事叙云々。四丁才見合考へ

シ。

小 釋日本紀云、兼方按、歌場者男女集會、詠和歌契交接之所也。

(309) 狩 萬葉集注釋一引、此以伊夜是留乃云々、為孃子歌恐誤。

伴 女子、歌垣ノ後ニ立ムトイヘト汝兄ノ子ガ八十島隠ル、ガコトク吾ヲ見テハコナタカナタヘカクレサ走リ

タリシガウラメシキトイヘリ、トキコユ。男子、イヤセルノ地名アセ名ナリノ小松ニ木綿シデ、神ニ幣奉ルサマニモテナシテ吾ガ和乎ノ平カ加ノ誤カ方言カ振りマネクサマ見セタルモノ地名阿是小島ハモ。

小||此歌仙注ニ、海上安是之孃子歌曰、伊夜具留乃云々トシテ引タリ。サレド男ノ歌也。

310 西野本頭注||令世云、早或作乎非、蓋早與ホ同。古本將門記或作早、皆保省文也。以彰考館本作早者為是。乙本、郎子歌作大字、今据丙本。

311 伴||奈イ平、汝兄也。廿丁ウ二行、奈ナセ羨松可考。

312 西野本頭注||甲本乙本、語字作晤字、丁本作晤字、皆非据己本許正之。

313 狩||蔭松下句、脱一字。

携手促(14)膝。陳懷吐憤。既釋(15)故戀之積疹。還起(16)新歡之頻咲。于(17)時玉露抄。候(18)全風之節。皎皎桂月照處。唳鶴之西州。颯颯松颼吟處。度雁之(19)東路。山寂寞兮巖泉舊。夜蕭條兮烟霜新。近山自覽(20)黃葉散林之色。遙海唯聽(21)蒼波激瀆之聲。茲宵于茲樂。莫之樂。偏耽(22)語之甘味。頓忘(23)夜之將闌。俄而鷄鳴狗吠。天曉日明。爰童子等(24)不知所為。遂愧(25)人見。化成(26)松樹。郎子謂(27)奈美松。孃子稱(28)古津松。自古著(29)名。至今不改。

314 狩||低、恐促。

西野本頭注||甲本、促膝作低膝、據丙本丁本及己本。

315 狩||雁下、恐脱之。

伴||之脱字カ。

316 西野本頭注||甲本乙本、東路作東帖、戊本作東略、共不可讀。按唐謝曹詩云、延翩向秋方、回首瞻

東路ニ云、據レ此則傳寫之誤。故今訂正之。乙本東路下有ニ處字、今据諸本削レ之。

(317) 狩レ怙、恐怙。

伴レ誤字カ、帖ナラムカ。

(318) 伴レ昼坎。

小レ昼カ。

(319) 西野本頭注レ甲本乙本、耽字作ニ沈字、据ニ己本一。

(320) 伴レ闌又開カ。

小レ秀按、將開、疑將闌。

西野本頭注レ甲本乙本、闌字作ニ開字、據ニ丙本一。

(321) 西野本頭注レ乙本丙本、童子作ニ僮字、据ニ己本一。

(322) 狩レ他、恐化。

郡北三十里白鳥里。古老曰。伊久米天皇之世。有ニ白鳥一。自レ天飛來。化為ニ童女一。夕上朝下。摘レ石造レ池。為ニ其築一堤乎。徒積ニ日月一築レ之。築壞不レ得。作成一。童女等唱曰。
志滿止利乃、芳我部都彌乎、都都牟止母、安良布麻目石疑、波古數
由レ是其所號ニ白鳥郷一。斯呂唱レ歌昇レ天。不ニ復降來一。

(323) 狩レ倭名鈔、鹿嶋郡白鳥郷。

伴レ白鳥里、下文ニ白鳥郷アリ。和名抄鹿島郡白鳥郷アリ。此地名、今廢。

鹿島神宮旧記ニ中村ヨリ神戸ド原マデノ間ヲ白鳥郷ト云フ由見エタリト北条氏云ヘリ。

西野本頭注レ和名鈔、鹿島郡白鳥郷、今郡中大和田村主石神社梁牌銘、有ニ白鳥莊德宿郷字一。今德宿村有ニ白鳥

近世における『常陸国風土記』の研究について

近世における「常陸國風土記」の研究について

社。又府中税所氏古文書、有「白鳥郷名」。按、今大和田徳宿等之地、古謂「白鳥郷」是也。

(320) 狩名、恐石。

(321) 西野本頭注按、丁本斯呂作「斯呂」、與清云、呂字下恐脫「鳥字」。蓋白鳥之誤乎。

(322) 狩呂字不可讀。恐缺文二方圍。

伴ノチク口口二欵。

以南所_レ有平原。謂「角折濱」。謂古有「大蛇」。欲通「東海」。掘濱作穴。蛇角折落。因名_レ之。或曰。倭武天皇停宿此濱。奉羞御膳。時都無_レ水。即按「執鹿角」掘地。為「其角折」。所以名之。以下略之。

(323) 伴角折濱、今在。

小秀按、角折濱、今存。

西野本頭注按、角折濱鹿島神宮北三里許、今有「角折村」。令世云、按文正草子曰、常陸國角岡磯、蓋亦指此地也。

(324) 西野本頭注按、謂古以下、乙本己本為「分註」者、恐傳寫之訛。今据丙本及戊本「補訂」之。

(325) 狩國、恐因。

(以下、続く)